

Take Free  
ご自由にお持ち帰りください

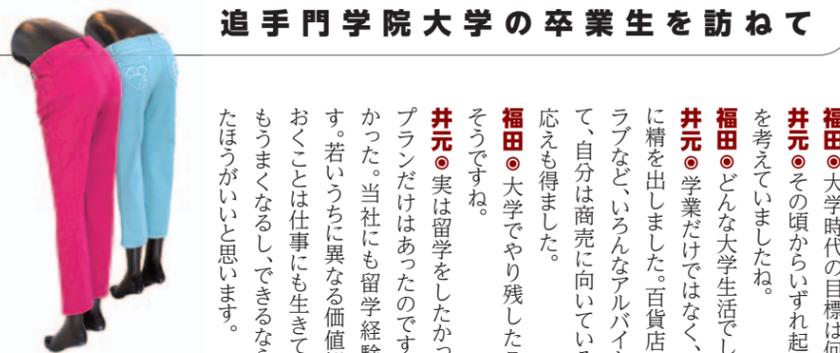
# OTEMON Bridge

学生・教員・職員のためのインタラクティブ・マガジン  
【ブリッジ】



# vol. 07

Bridge OTEMON GAKUIN UNIVERSITY VOL.7  
発行日/2015年10月15日 発行/追手門学院 総務課広報課・学生企画広報スタッフ  
〒567-0008 大阪府大阪市西淀川区2-1-15 TEL.072-941-9500 / FAX.072-641-9645 編集協力/株式会社バリュープランニング  
【通巻45号】 ※1999年6月15日第1巻発行(当時の誌名は「OTEMON PRESS」) 2012年10月より「BRIDGE」へと誌名変更  
追手門学院大学ホームページ <http://www.otemon.ac.jp/>



「魔法のパンツ」  
独自に開発した360°ストレッチ素材を使用した美脚ストレッチパンツ。類例のない伸縮性と品質の高さで、毎日着たいくなるはき心地を実現した。

## 追手門学院大学の卒業生を訪ねて

**福田**◎ 大学時代の目標は何でしたか。  
**井元**◎ その頃からいざれ起業することを考えていましたね。  
**福田**◎ どんな大学生活でしたか。  
**井元**◎ 学業だけではなく、アルバイトに精を出しました。百貨店やナイトクラブなど、いろんなアルバイトを経験して、自分は商売に向いているという手応えも得ました。  
**福田**◎ 大学でやり残したことはなそうですね。  
**井元**◎ 実は留学をしたかったです。プランだけはあったのですが、できなかった。当社にも留学経験者がいます。若いうちに異なる価値観に触れておくことは仕事にも生きてくる。英語もうまくなるし、できるなら留学はしたほうがいいと思います。

**福田**◎ 井元社長は、常務までお務めになった会社を退社して独立されました。そのとき40歳ですね。  
**井元**◎ 今、日本人男性の平均寿命がおよそ80歳。40歳になり人生の半分に差し掛かったとき、このままじゃ面白くない。生き方を変えてやろうと思ったんです。やってみてダメだったらやめればいいだけの話ですから。  
**福田**◎ 現在、ストレッチパンツ専門店「ピースリー」を主力ブランドとし、全国に展開されています。2015年2月には、「おもてなし研究所」を設立されました。どのような組織でしょうか。  
**井元**◎ 私達のビジネスの基本として「ハード(商品)」「ソフト(安心安全)」「ハート(おもてなし接客)」の要素があると考えています。おもてなし研究所はそのうちの「ハート」の部分強化する組織です。単に商品を数多く売るのがよい接客ではありません。お客様に感謝の気持ちを持ち、心地のよい時間を提供することが大切。そうした接客の価値観を持てる人材育成を図っています。

**福田**◎ 今後の展開はいかがですか。  
**井元**◎ 東アジアを中心に販路を広げていくつもりです。我々はデザインではなく機能を売っています。そこは人種によつて捉え方の異なる部分でもあり、実際に店舗を構えてやってみなければわかりません。実験として40〜50の店舗を2020年までに設置する計画です。  
**福田**◎ 最後に、井元社長の仕事観について教えてください。  
**井元**◎ 皆がよくなることをする。自分だけよくなるのはダメ。お客様、取引先、社員——喜ぶ人が増えていけば、この会社は世の中に存在したほうがいいということになりますからね。

**取材を終えて**  
最も印象に残ったのは、40歳という年齢で会社を設立したこと。[40歳でもまだ半分!挑戦してダメだったら辞めたらいい]という考え方を聞き、私自身ももっと頑張ろうという気持ちになりました。また、皆が幸せになる方法を常に考えているという話を聞いて、本当に素敵なお方だと思いました。成功する人は、考え方が違うのかも知れません。

経営学部 マーケティング学科2年 福田 菜摘さん



VOL 1



株式会社バリュープランニング 代表取締役社長 井元 憲生氏 第7期卒業生

Profile | 井元 憲生氏  
1953年兵庫県生まれ。1976年追手門学院大学経済学部卒業。大手アパレル勤務を経て、1994年株式会社バリュープランニングを設立。独自のストレッチパンツを主力商品に急成長を遂げた。店舗数は国内249店、海外3店(収録時)。  
[Interview: 福田 菜摘/西尾 紗希/古賀 千晴]

▲ 追手門学院大学で学ぶ外国人留学生

世界で通用するリーダーシップとは?

特集: GLOBAL 「グローバル」してますか?

▶ グローバルキャリアコース ▶ 追手門学院大学 リーダーズ・スクール [リーダー養成コース]

連載: 社会へのBridge [卒業生×在学学生]

Vol.01 | 井元 憲生氏 [株式会社バリュープランニング 代表取締役社長]

連載: 「想像もしなかった自分史」を始めた学生の肖像

Vol.02 | 国際教養学部 アジア学科 木村 萌さん [学生FD]



その場ですぐに結果がわかる Bridge アンケートに答えよう!

Bridgeのアンケートサイトが新たに誕生。アンケートの結果がその場で見られるので、みんなの気持ちがすぐわかる!今回はお気に入りのファッション、留学、インターンシップについての設問です。ぜひお答えください。

- 学生企画広報スタッフ
- 上原 沙斗斗 [経営学部4年]
  - 八木 真奈美 [経営学部3年]
  - 壽崎 達也 [経営学部3年]
  - 船岡 葉奈 [経営学部3年]
  - 奥谷 宏太郎 [経営学部3年]
  - 福田 菜摘 [経営学部2年]
  - 堀玉 咲緒 [経営学部2年]
  - 古賀 千晴 [心理学部1年]
  - 西尾 紗希 [社会学部1年]
  - 向井 雅羅 [経済学部1年]
- この4月に追手門学院大学に入學し、広報スタッフとして活動を始めたばかりの私は、高校時代は放送部に所属していました。放送部ではアナウンス原稿を作ることや、番組制作を通して、「自分の考えを発信すること」の楽しさを知りました。大学でもそういった活動がしたいと考え、学生企画広報スタッフへの所属を決めました。自分の思いを多くの人に届けるために、未熟な私ですがこれから多くの機会を通して成長していきたいと思えます。
- (学生企画広報スタッフ・古賀千晴)

「BRIDGE」制作メンバー [学生企画広報スタッフ] 1・2年生 大募集中!

当マガジン「BRIDGE」を一緒に作ってませんか? 興味のある人は気軽に見学しに来てください!  
● 見学の申し込み・お問い合わせ / 1号館2F 総務室 広報課 [担当: 吉田] (または下記メールアドレスにご連絡ください)

[スタッフ会議] 3106教室 / 毎週木曜日 / 12:40~14:30頃まで (昼休み限定の参加もOK・他団体所属の学生も歓迎します)  
※メールでの応募・お問い合わせはこちらまで ▶ [gakuseikoho@ml.otemon.ac.jp](mailto:gakuseikoho@ml.otemon.ac.jp) [担当: 八木 (経営学部 3年)]

# Q1

皆さんの日本もしくは日本人の印象は？

**タレフ** ●来日前は、外国人に対してフレンドリーな国民性ではないと思っていました。どちらかと言えば外国人を排除するようなところが真実はまったくの逆。日本人は自由にプライドを持つだけじゃなく、外国人もきちんとリスペクトしている。愛するべき人たちです。

**マレン** ●日本人学生はシャイだけど、時間をかければちゃんと心を開いてくれますね。

**プリア** ●街について言えば、何より安全なのがいわ。日本は安全な国だと聞いてはいたけど、そうは言っても外国人には危険も伴うと思っていますから。



**サウルウス** ●僕は日本で勤務することを希望しています。ともかく、日本と世界をつなぐ仕事がしたい。  
**ロイット** ●僕の夢は日本でプロフェッサーになること。できれば追大に戻って教員になりたいですね。僕の専攻は商学です。商学の研究者は数多いけど、日本の大学で研究するインド人なんてそついませんからね。

# Q3

グローバルに活躍するために(国籍を問わず)必要な資質は何？

**タレフ** ●英語は大前提として、サウルウス君がロシア語を使えるように、欧州やアジアの他の言語も話せると有利だね。

**マレン** ●私は言葉の問題以外のことを考えるべきだと思うの。たとえば、その人の表現力。リーダーとして活躍するならメンバーのモチベーションを引き上げる表現力を持っているか。

**サウルウス** ●語学力があっても、決断力がなければ……。語学力は前提に過ぎない。  
**タレフ** ●たしかにその通りだね。グローバルという点を踏まえると、多種多様な文化、宗教が交わるなかで仕事をするわけだから、違う考え方を乗り越えないといけない。だから、寛容性とか受容性がカギを握るかな。

**プリア** ●私は何も無いところからスタートできる力を持った人間、イニシエータ(創始者)と呼ばれるタイプの人に魅力を感じる。周りのモチ

# GLOBAL

特集  
SPECIAL  
FEATURE

## Q&A | 海外からみた、「日本人」と「グローバルリーダー」

● Q&Aに参加してくれた追手門学院大学で学ぶ外国人留学生の皆さん ①国籍 ②大学名 ③留学期間

※取材時(6月24日)に在籍していた留学生

### 01

Maren Gunther  
ギョントナー・マレン

- ① Germany(ドイツ)
- ② Gottingen University(ドイツ)
- ③ 2015/3/26-2015/7/31

### 02

Tarek El Chamah  
エル・チャー・タレフ

- ① France(フランス)
- ② Regent's University(イギリス)
- ③ 2015/3/26-2015/7/31

### 03

Saulius Zananavicius  
ザナナヴィチユス・サウルウス

- ① Lithuania(リトアニア)
- ② Regent's University(イギリス)
- ③ 2015/3/26-2016/1/31

### 04

Pandey Priya  
パンディ・プリア

- ① India(インド)
- ② Gujarat University(インド)
- ③ 2015/05/18-2015/08/05

### 05

Sharma Rohit R  
シャーマ・ロイット

- ① India(インド)
- ② Gujarat University(インド)
- ③ 2015/05/18-2015/08/05



# 「グローバル」 していますか!?

## 世界で通用するリーダーシップとは?

グローバル社会での活躍やリーダーシップの養成という時代のニーズに応えるべく、本学では「グローバルキャリアコース」と「追手門学院大学リーダーズ・スクール」を設置し独自の取り組みをスタートさせている。

“グローバル” “リーダーシップ”という言葉は、同世代の外国人たちには、どんな価値を持っているのか。追大の留学生たちに聞いてみた――。

[ interview : 古賀 千晴 / 壽崎 達也 / 児玉 咲紀 / 西尾 紗希 / 向井 雅敏 ]



## Bridgeアンケート

その場で結果がわかるアンケートに答えよう!

Q1 留学に興味はありますか?

Check!



**サウルウス** ●僕も同意見。日本人ってどこへ行くのにも大きなカメラもっているでしょう。あんな貴重品を持ち歩いても大丈夫なんだね。  
**ロイット** ●個人的なことですが、僕はベジタリアンでして、日本の食べ物はどうなっているのか心配だった。でもホストファミリーがベジタリアン用の食事やインド料理をつくってくれる。だからインドが全然恋しくならないよ。ちなみに好物は豆腐です。

# Q2

日本での留学成果を今後どのように活かしていきたい?

**マレン** ●ドイツに帰って旅行会社に勤務するのが目標です。旅行が好きだから、仕事にしたい。日本は観光地としてもとても魅力的よ。日本語を学んで、京都や東京を観光して回った経験を活かしたいと思っています。

**タレフ** ●10年後には日本で仕事をみつけないと思っています。でも僕の日本語のレベルでは、まだまだ。帰国してからも日本語の勉強を続けるつもりだよ。日本語ができることは、チャンスが増えることを意味するんだ。

**プリア** ●日本語って世界で一番修得が難しい外国語じゃないかしら。その、難しい、日本語を、私は学びにきたし、身につければそれだけ価値はある。できれば修士課程まで進んで、将来は日本語を教える仕事に就きたいですね。

ベリションも上がるだろうし、そついつリーダーなら国籍は関係ないでしょう。

**ロイット** ●僕は商学を学んでいることもあって、リスクマネジメントが気になってしまっています。グローバルな環境は、チャンスが多いぶん問題を起こす要素も持っている。マイナス面をちゃんと想定して、リスクマネジメントを怠らないこともリーダーの素養だと思いますね。

**マレン** ●何かの専門を持つことも有効ね。マネジメントならマネジメントでいいから、1つの分野を掘り下げることって、いろんなことにつながりが出てくるものだし。

**ロイット** ●深く掘り下げてもいいし、浅く広くでもいいので、常に新しいことを学んでいる状態でありたいよね。  
**タレフ** ●そうだね。グローバルな活躍をめざすにしても、勉強の材料は身近なところに多々ある。日本人学生の皆さん、今度僕たち留学生のプレゼンテーションなんかも見に来てよね!



# Report 01 ★ GLOBAL グローバル キャリアコース

GLOBAL CAREER COURSE

1年次対象 / 全学部対象

**第一期生が留学を終え帰国。  
それぞれが、  
グローバルキャリアへの  
第一歩を踏み出し始めた。**

[ Interview : 壽崎 達也 / 八木 真奈美 / 西尾 紗希 / 奥谷 宏太郎 / 古賀 千晴 ]

## 留学の成果を踏まえて

就職活動の準備を進める1年生。  
グローバルな活躍を実現したい。

2013年に始動した「グローバルキャリアコース」が完成年度に向け、着々と歩みを進めている。2015年7月、同コースの1期生が全員留学を終え帰国。留学の事後教育という仕上げ段階に入った。

「グローバルキャリアコース」とは、所属学部での学びに加えて、コースの科目履修とともに約1年間の留学に参加。学部にも所属しながら、英語力とグローバルな視野を養成する。ちなみに、留学には別途費用が必要だが、(留学期間に相当する) 追大の1年分の授業料を奨学金として支給することで負担軽減を図っている。

募集は1年生を対象に、入学直後に告知、説明会が開催される。定員は30名。希望者は面談とTOEIC®テストを経て合格すればコース生に。1年生の夏合

宿から所属学部とコースの学習を並行する学生生活がスタートする。留学期間は2年生の秋学期から3年生の春学期まで。留学先大学は1年生の年明けには決めて留学準備に励む。

留学先大学では現地で用意される留学生向けの科目を履修するが、実力次第では正課の授業に参加することも可能。実際に正課にスタップアップした学生もいる(留学先により制度が異なる)。

コース1期生は現在、就職活動の準備を着々と進めている。コースの授業で就職活動を後押しするのがグローバルキャリア論。様々な業界におけるグローバル企業の幹部や人事担当が来学、講義をするという内容で、いわゆる「顔つなぎ」の効果も期待できる。

1期生が身につけた英語力をもって、どのような就職を遂げていくか。注目したいところである。

## ●第一期生の留学先と渡航人数

### アメリカ▶19人

- UNITED STATES OF AMERICA
- スノーカレッジ
  - カリフォルニア州立大学 ロングビーチ校
  - ノースウェスタン ミシガンカレッジ
  - ミシシッピ大学
  - バルドスタ州立大学
  - フェリス州立大学

### マレーシア▶6人

- MALAYSIA
- マレーシア科学大学 (USM)
  - テナガ・ナショナル大学

### オーストラリア▶8人

- AUSTRALIA
- ディーキン大学
  - グリフィス大学

### アイルランド▶6人

- IRELAND
- 国立リムリック大学
  - ダブリンシティ大学

### イギリス▶1人

- UNITED KINGDOM OF GREAT BRITAIN AND NORTHERN IRELAND
- リージェンツ・ユニバーシティ・ロンドン

## 留学後半は現地大学の 正規課程の授業に参加できた。

毎日7時間も図書館に  
こもって勉強していた。

僕にとって留学は、これまでの人生で一番勉強した期間となりました。後半から現地の正規課程の授業に参加するようになったからです。最初は留学生対象の語学学校からのスタートで、徐々にレベルを上げ、前半の終わりにはレベル6という正規課程に入れる学力になっていました。でもさすがは正規の授業。英語のレベルも格段に違っし、予習復習をしなければついていけず、毎日7時間ほど図書館にこもるようになります。限界まで勉強したと言え、印象に残っています。

## 日本人学生と留学生を つなぐサークルを設立。

あと印象に残っているのが、ボランティアで小学校に日本の文化や日本語を教えに行ったことです。初めて教育現場に足を踏み入れて思ったことは教師の責任の重さ。勉強を教えるだけでなく、教師は家庭外の親のような存在であり、生



国際教養学部  
英語コミュニケーション学科 3年  
Shuta Nakajima  
中島 修太さん  
[留学先] アメリカ  
●バルドスタ州立大学

徒の人生にも大きな影響を与える職業だと感じました。その経験から、教育にも大きな関心をもつようになりました。最近サークルを立ち上げ、正式なサークルとして活動するための手続きを進めています。活動内容は、追大の日本人学生と留学生をつなぐというコンセプトで、旅行やイベントを企画したり、必要に応じて語学面でのサポートも行います。サークル名は「二語会(いちごいちえ)」。留学生との壁を取り払い、交流を深めてくれるばとても嬉しいですね。この活動を始めたこと



## | INTERVIEW | 留学で手に入れた力

## 現地でクラブ活動に 参加して英語力を磨いた。

マレーシアならではの  
メリットもあった。

マレーシアの大学を選んだのは学費が安かったからです。想定外のメリットがありました。英語は準公用語となっており、母語はマレー語ですので、英語圏と違い現地の学生も英語を学んでいる状況です。私がいたクラスは、留学先大学の正規課程に入学するための英語を修得するところで、それが自分のレベルに適していました。いきなりハイレベルな英語力を求められたなら、挫折していたかもしれませんが、また、マレーシアは多文化、他宗教の国でいろいろな考え方に触れたことで視野を広げられました。結局マレーシアが大好きになって、帰国後すぐの夏休みにインターシップでマレーシアへ戻ったくらいです。できれば、就職も現地でしたと考えています。

## どこでも生きて行ける たくましい人間になった。

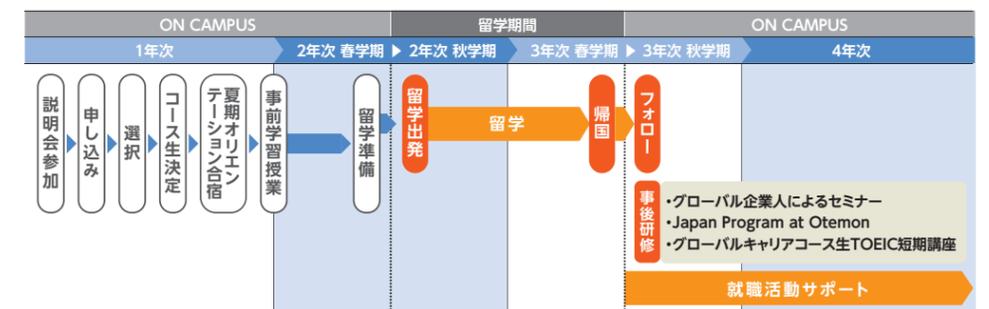
留学中、学習効果を高めるため、何か自分なりに工夫できないか考えました。そこで思っていたのがクラブ活動。中学から卓球をしていたので、留学先大学の卓球部に入れてもらいました。友達の数も増え、英語を使う機会も格段に増し、コミュニケーション力を伸ばすことができました。ちなみに現地の大会にも参加し、優勝と準優勝を経験するという貴重な体験も。実際この留学で、発音は決して流暢でなくとも「何とか英語で生きて行ける」と実感できるレベルにはなりました。ちなみにTOEIC®スコアは2000点アップです。

人間的にも強くなりましたよ。エアコンも電子レンジもない環境で暮らしていたし、水道の蛇口で洗髪できるようにもなりましたから(笑)。どこでも生きて行けるたくましさを感じて帰ってきました。



社会学部 社会学科 3年  
Saori Yamamoto  
山本 彩織さん  
[留学先] マレーシア  
●テナガ・ナショナル大学

## グローバル キャリアコースの 流れ



「日本」多様なリーダー養成」を掲げる OLSがスタート。

2015年4月、「追手門学院大学リーダー養成コース(以下OLS)」が新設された。このコースはリーダーシップについて勉強したい学生が、学部を超えて集まるいわば学内ダブルスクール。選抜試験をくぐり抜けた1期生が学んでいる。

教育の核となるのは追手門学院大学リーダーズ・スクール・セミナーというプログラムで「EQリーダーシップ」「PM理論」「コーチングとメンタリング」などの講義を受講してリーダーシップに関する基礎理論を身につけたり、他大学と合同でロールプレイング型の合宿に参加したりする。期間は春学期。授業は週に1回だが、自主学習も欠かせず、かなりの勉強量をこなすことになる。

そもそもOLS開設のねらいは何だろうか。責任者の秦副学長(副学長(基盤教育機構)に尋ねた。

「本コースが掲げるフレーズは「日本」多様なリーダー養成です。つまり、こんな学生を育成したい、といった固定的な目標はありません。OLSで学ぶのはリーダーシップの發揮の仕方であって、リーダーのなり方ではないのです。だいたいリーダーとは社長などポストのこと。それは保証できませんけど、リーダーシップに関する能力が身につくことは保証します。リーダーシップには、人を牽引するタイプ、支えるタイプなど様々あり、ここでは自分らしいリーダーシップのスタイルを身につけます。トップにならなくてもどんなポジションでも社会を動かす仕事はできるし、リーダーシップは發揮できる。しかもその潜在力は誰にでも備わっています」。



さあ、セミナーの開始。「ぜひシビアな評価をお願いしたい」とスタッフに促す秦副学長。

「学生レベル」では意味がない。容赦なく飛び交う 厳しい批評。

「はい、お疲れさんー」プレゼンテーション終了後、秦副学長のこの言葉とともにリフレクションに入った。どの班も25分間を上手に使って切り、弁舌も巧みであった。が、スタッフからの批評は「何が良かったのかさっぱりわからない」「テーマと内容が不一致」「肝心なところのエビデンスがない」など等、厳しいものばかり。

こんなやり取りがあった。「プレゼン終了後自己評価で何点?」という教員の問いに「40点」と遠慮気味に答えた。するとその教員は「プロがセミナーを開催す

るとき、自分たちで40点と言えぬのか」と強い調子で問った。要するに、OLSでは「学生レベル」は求められないということだ。自らの甘さを思い知った。OLSに飛び込んだからできた経験だった。



世界を舞台にリーダーシップを育む! ▶ リーダーシップ・チャレンジ

「リーダー養成コース」では、海外プログラム——「リーダーシップ・チャレンジ」を用意している。この海外プログラムを提供しているのが、西日本リーダーズ・スクール(UNGL)だ。同プログラムには、追手門学院大学をはじめとする18の連携校から様々な学生が参加している。UNGLの事業は段階的なプログラムで構成されており、リーダー養成コースではOLSで身につけたリーダーシップを実践する場として、「2国間」・「多国間」のプログラムへの参加を推奨している。

※海外プログラムはコース生以外の学生も参加可能

“2国間”プログラム  
サイパン

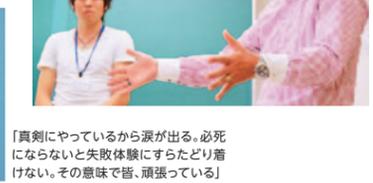
“2国間”プログラムでは、外国語を用い、価値観、立場、文化背景などが異なる組織での協同活動を通してリーダーシップ(スキル・知識・態度)を身につけることが目的。特に本プログラムでは、現地の小学校で、日本文化や道徳にまつわる教育実習を実施する。また、自分の得意分野を活かして社会貢献を行うほか、ホームステイを体験することで自律性や社会性を養う。

“多国間”プログラム  
マレーシア

“多国間”プログラムでは、多国間での異文化研修、国際カンファレンス等での発表・討議・交流を通してリーダーシップ(スキル・知識・態度)を身につけることが目的。特に本プログラムでは、多様な観点と考えからグローバルな課題にアプローチする能力、異なる文化背景と価値システムへの理解の獲得、国際的なソーシャル・ネットワークの構築をねらいとする。



和やかなムードで進んだプレゼンテーションだが、「仲間に依存したセミナー。他所では通用しないと手酷かった。」



「真剣にやっているから涙が出る。必死にならないと失敗体験にすらたどり着けない。その意味で皆、頑張っている」

[Interview: 八木 真奈美/船岡 茉奈/古賀 千晴]

Report 02 ★ GLOBAL  
追手門学院大学  
リーダーズ・スクール  
[リーダー養成コース]  
OTEMON GAKUIN UNIVERSITY LEADERS SCHOOL  
原則2年次以上対象 / 全学部対象

今春より始まったOLSゼミナール。世界で通用するリーダーシップを身につけられる学内ダブルスクールだ。



全員の前で学習成果を発表 学びの集大成としてのセミナー。

この日は「追手門学院大学リーダーズ・スクールゼミナール」の集大成と位置づけられる学生リーダーズ・セミナーの初日。これまでの学習成果を全員の前で披露する日である。3〜4名で1つの班をつくり、班ごとに25分間のプレゼンテーションを実施。その後、教職員と学生で20分間のリフレクション(振り返り)を行うという流れ。

「成長は自分で遂げるしかない。僕らにできるのは気づきを与えること。その機会がリフレクションであり、とても重要な時間です。厳しく臨みませ」と秦副学長。プレゼンテーションの内容は、「リーダーに求められる力」をメインテーマに、それを反映した「〇〇力」という言葉を用いて進める。条件はそれだけで、パワーポイントは使用してもなくてもよい。どんな資料をつくってもよい。準備期間は約1カ月。準備の方法は自主性に委ねられる。

学生企画広報スタッフの視点

あまりの厳しさに見ている私たちも緊張しました。



授業を取材して、学生たちは自分たちの意見をはっきりと述べる素晴らしい発表をしたと思ったのですが、先生方の指摘はとても厳しいものでした。OLSの授業目標である「自分で自分を振り返る能力の修得」とは、このような状況から生まれるのだなと思いました。授業後ある学生に、なぜ頑張っていたかを尋ねると「熱心な先生方への感謝の気持ち」という答えが返ってきました。他者への感謝は、強いモチベーションになるものだと感じました。

八木 真奈美

リフレクションは、部屋の空気が変えてしまいうくらい厳しすぎて、発表者ではない私まで緊張してしまいました。しかし、そこまで厳しい指摘ができるのは、それだけ真剣であるということだと思います。学ぶ側と学ばせる側の責任ある態度に感謝を受けました。私はこの日のセミナーしか取材していませんが、講義にも参加してみたくありません。OLSは、自主的な行動力を身につけたい、物事を深く考えたいと思う人に向いているコースだと思います。

船岡 茉奈

OLSゼミナール 受講生の声



経済学部  
ヒューマンエコノミー学科 3年  
Yuki Masaoka  
正岡 勇樹さん

“リーダーシップ”は将来どんな仕事に就いても役立つ。

発表を終え、リフレクションで厳しい指摘を受けているときは、もう言葉になりませんでした。自分たちとしては全力を尽くしたつもりですが、まだまだ甘かったのです。でも落ち込んではいません。OLSに参加するようになってから、失敗は成功へのプロセスであるという意識やチャレンジ精神が出てきました。それに実社会はもっと厳しいはず。こうした壁を乗り越えることが成長につながるし、OLSは自分のどこを磨けばいいのかわかり、自分の弱点を見いだすうえでも、とてもいい環境があると思います。

僕は教職課程を取っていますので、将来は教師か一般企業への就職を考えています。OLSの学びは、リーダーという特定の人間ではなく、誰でも発揮できる“リーダーシップ”を身につけるもの。将来、どんな仕事に就いても役立つ力になると思います。



# 溝畑 宏 教授

地域創造学部 地域創造学科

Hiroshi Mizohata

[ interview : 古賀 千晴 / 児玉 咲紀 ]

## FACE

Professor's Interview



### どんな仕事に就いても 国家観を持たなければならない。

1960年生まれ。東京大学法学部卒業後、自治省(現総務省)に入省。1990年から大分県に出向し、企画文化部長、大分県参事などを歴任。2004年から2009年まで大分トリニータの社長を務め、2008年にはJリーグナビスコカップで優勝(J1優勝)。2010年から2012年まで観光庁長官。退任後は内閣官房参与などを務めた。現在、追手門学院大学地域創造学部教授のほか、大阪観光局理事、大阪府特別顧問、京都府参与などに就任している。

「人を巻き込むこと」。「何かを成し遂げるには、いかに人を巻き込むか」がわかると思いますが、壁に突き当たったときの対処法を教えてください。実務家教員のリアルな体験談が飛び出す授業。たとえば、仕事において重要な要素は、まず「人を巻き込むこと」。

成功体験だけではなく  
失敗体験もリアルに伝えたい



「幸せオーラ満開で」と、独特のスタンスで臨んでいる。

「それと、学生さんには国家観を持つてほしいですね。どんな仕事に就いても、こういう国にしたい、こういう地域にしたいと朝晩考える人間になってほしい。国を変えるのは総理大臣だけじゃないんです。自分自身もその当事者意識さえあれば、どんな分野からでも変えられる。仕事を自らの国家観を実現する方法だと思えばいいのです。もちろん僕自身、昔から国の10年後の姿を常に考えていました」

授業の方針は「幸せオーラ満開で」と、独特のスタンスで臨んでいる。

「能力の限界だ、できない、ということを平気で言う人がいます。僕に言わせれば努力を放棄しているだけ。大学卒業後、ぱりぱり仕事を上げる期間が50年もある。日々自分のレベルを上げる努力を積み重ねれば、何だってできる」。

溝畑教授の前では「できない」は禁句ということになりそうです。

「暗い顔はダメ。幸せオーラ満開で、学生さんにプラスのエネルギーを与えるのが最低条件です」。

さらに、大学の授業には「訓練」と「教育」があり、両者は別のものだという。

「訓練は知識や技術を育て、二方通行でも成り立つ。他方「教育」は人間を育てることで、学生と教員の共同作業。僕がやりたいのは「教育」のほうです。自分自身の大学時代を振り返っても、知識しか来ない先生の講義は退屈でした。生きるうえで心に響く言葉をもたらした先生については今でもよく覚えています。学生は教員を選べないという責任を自覚して、将来の目標を見いだせるような授業を展開していきたいと思っています」。

学生に強調したいことは「自分の限界を決めないこと」。

「能力の限界だ、できない、ということ」を平気で言う人がいます。僕に言わせれば努力を放棄しているだけ。大学卒業後、ぱりぱり仕事を上げる期間が50年もある。日々自分のレベルを上げる努力を積み重ねれば、何だってできる」。

溝畑教授の前では「できない」は禁句ということになりそうです。

「暗い顔はダメ。幸せオーラ満開で、学生さんにプラスのエネルギーを与えるのが最低条件です」。

### 出身企業 | 毎日放送

[ interview : 西尾 紗希 / 向井 雅駿 | Photo : 向井 雅駿 ]



### 「笑い」を発信してきた人間だからできる授業。

毎日放送では長年、漫才や落語などのお笑い系の番組制作に携わり、最後の10年間はアナウンサーの管理を担ってきました。こうした経歴から、「笑い」と「正しい日本語」が私のテーマになっています。人間は一人では生きられない存在という認識を土台に、言葉を大切に。これが一貫した方針です。事実、正しい言葉づかいや笑いは、コミュニケーションをより円滑にしてくれます。また、授業でも取り上げる落語は社会を学ぶうえでも非常に効果的なものです。お笑いは、人生の機微も教えてくれるのです。

高垣 伸博 教授  
社会学部 社会学科

1978年関西学院大学文学部卒業。同年毎日放送入社。制作局、放送業務局、アナウンサー室長などを経て、2015年より現職。担当科目は「メディア文化論B」「映像文化論」「文化社会学特殊講義2B」「社会探偵学演習C4」「コミュニケーション演習F」他。

PICK UP

## テレビ・ラジオ・新聞社で働いていた先生

マスコミ業界の最前線で活躍してきた方々が、立て続いて教員に就任している。実務家出身の教員だからこそできる興味深い授業が展開されている。

### 出身企業 | 毎日新聞社

[ interview : 上原 沙斗子 ]



### 文章は想像から入って創造へと飛躍していく。

長年新聞記者を務めてきた人間として、文章の書き方や情報収集のノウハウについて講義をしています。文章を書くうえで大切なのは、まず想像力です。「こうでないか」という想像を巡らせ、現場を歩いて情報を集める。そうすることで想像が創造に飛躍するので。また、文章はたくさん書くと同時に、第三者にみってもらうことで上達します。私自身がしっかりと添削をして、学生の文章力向上に役立ちたいと思います。文章力は運転免許のようなもの。運転さえできるようになれば、今後ずっと使い続けることができますよ。

豊島 真介 教授

教育・研究関係機関 地域文化創造機構  
1971年早稲田大学政治経済学部卒業。同年毎日新聞社入社。編集局社会部、総理部、総合事業局などを経て、2006年毎日文化センター社長。2009年毎日新聞大阪開発社長を歴任。2015年より現職。担当科目は「日本語表現O」「社会人の基礎B」他。

### 出身企業 | 時事通信社

[ interview : 上原 沙斗子 / 西尾 紗希 ]



### 特派員としての経験を様々な角度から伝える。

時事通信社に入社して1年目から国際ニュースのセクションに勤務し、その後特派員として欧州などに駐在し、外交や国際紛争の現場取材してきました。授業では国際政治・経済の情勢について学ぶなかで、私自身の特派員としての体験談やエピソードも交えることで、学生にとって興味深い内容にしていきたいと考えています。また、留学に関心をもつ学生の相談にも応じるのも、私にできることです。留学経験をもつ教員はたくさんいるでしょうが、それとは異なる角度から海外生活について助言したいと思います。

佐藤 伸行 教授

経済学部 経済学科  
1985年早稲田大学政治経済学部卒業。同年時事通信社入社。ハンブルグ特派員、ベルリン特派員、外信部記者、ウィーン特派員、ワシントン支局長、編集委員などを歴任。2015年より現職。担当科目は「ヨーロッパ経済論2B」「経済学特殊講義2」「外書講読2A・2B」他。

### 出身企業 | 毎日新聞社

[ interview : 児玉 咲紀 / 向井 雅駿 | Photo : 向井 雅駿 ]



### 私たちはアジアを知っているようで知らない。

アジアの実情を、若い人たちに伝えたい。そう思ったのが大学教員になった動機です。日本人はアジアを知っているようで知りません。授業では経済だけではなく、政治、社会について国ごとにウオッチしながらもアジア共通の現象にも目を向けていきます。また、重要なのはアジア情勢の分析を通じて、日本の現状が浮き彫りになってくることです。たとえば電機や半導体産業。高い技術力を誇る日本が、なぜ台湾や韓国に後れをとるのか。アジアを知ること、日本の企業や産業の問題点も見えてきます。

近藤 伸二 教授

経済学部 経済学科  
1979年神戸大学経済学部卒業。同年毎日新聞社入社。香港支局長、台北支局長、外信部副部長、大阪経済部長、論説副委員長(大阪勤務)などを歴任。2014年より現職。担当科目は「国際経済学2」「開発経済学2」「経済学基礎演習2C(経済3組)」他。

潜入!  
とよピヨ体操  
普及プロジェクト

公益財団法人  
豊中市スポーツ振興事業団

# 追大実践型 インターンシップ

INTERNSHIP

[Interview: 八木 真奈美 / 船岡 美奈 / 古賀 千晴 / 向井 雅哉]

1年生から参加可能! 企業のリアルを体験できる!

「追大実践型インターンシップ」は、一般的な就業体験ではない。学生が受入事業所のリアルな課題解決に取り組み、中長期実践型のプログラムで、受入事業所は自らの課題解決の学生は自己成長の機会となる、双方にメリットのあるインターンシップである。

今回訪問した受入事業所は、公益財団法人豊中市スポーツ振興事業団。参加していた学生は、経済学部3年の延澤平さんと、経済学部1年の竹腰康平さんの2名。彼らの使命は、同事業団が普及に取り組んでいる「とよピヨ体操」を市民に広めること。期間は2015年8月1日〜9月11日のうち21日間。

「とよピヨ体操を市民に広める」という課題に取り組む

待を担ってインターンシップに参加した。「とよピヨ体操」とは、同事業団のマスコミキャラクター「とよピヨ」(写真)の活用促進のため開発された体操で、インターネットの動画サイトにも公開されている。すでに1年足らずのことである。普及はあまり進んでいないのが現状。彼らはイベントなどの機会に(左側写真のように)「とよピヨ」の両サイドに立ち、市民の前で体操を披露してきた。

このインターンシップは「とよピヨ体操」の普及活動という課題解決に絞られているが、その方法については2人に委ねられており、いかに彼らが自主性をもって課題に取り組むかが問われる。その点は2人とも自覚十分で、今後は市内の事業所や幼稚園などに巡回して、「とよピヨ体操」の普及に努めていくとのこと。そのための企画立案や提案用の書類作成も、2人で話し合いながら進めている。

## 担当者の視点から

2人とも意欲が高いと感じました。

事前の打ち合わせで、とよピヨ体操を覚えてくればインターンシップ初日の「豊中まつり」でステージに上がってもらおうと話していました。すると彼らは、驚くほど完璧に体操をマスターしていて、意欲の高さを感じました。今後、どんな成果をあげてくれるのか楽しみです。



施設事業課 課長代理  
狩集 誠さん

## インターンシップ体験者 INTERVIEW

### 「自分を変えたい」という意識をもってインターンシップに参加。

僕はどちらかといえば消極的で、自分から行動を起こすのが苦手なタイプです。まもなく就職活動がスタートするなか、そんな自分を変えなければいけない。そういう問題意識をもって「追大実践型インターンシップ」に参加しています。職場では、明るく元気な挨拶を心掛けるとともに、職員の方に迷惑をかけないように配慮しながらも、自分から積極的に動いていくようにしています。営業職をめざしていますから、いろんな人とかがかわれるこのインターンシップは、とても勉強になりますね。

経済学部 | ヒューマンエコノミー学科 | 3年生

延澤 一平さん

### 1年からインターンシップに参加。大学生活でいろんな経験をしたい。

インターンシップの前半は事業団について勉強したり、お祭りではとよピヨ体操を踊るなどイベントの手伝いをしたりする期間でした。後半からは延澤さんと話し合いながら、自分たちなりの体操普及の形をつくりたいと考えています。1年次からインターンシップに從事できるのは珍しいことだと思いますが、僕が追大に入ったのは自己成長につながる幅広い経験をするためなので絶好の機会。しかも体操の普及という普段できないような貴重な経験ができていて、大きなやりがいを感じています。

経済学部 | 経済学科 | 1年生

竹腰 康平さん

### 本学で9月開催の学生FDサミット。責任者として盛会に導く。

2015年9月2日・3日、追手門学院大学において「学生FDサミット2015夏」が開催され、およそ500名の大学生および教職員が全国から集まった。その責任者を務めたのが木村さんである。

「参加することで何らか感化された人、お祭り騒ぎだけじゃなく論理的に議論したい人、両方の層が来校します。どのどちらも満足させるサミットをめざしました。」

木村さんがこの活動に参加した動機は単純だ。入学直後、何となく入った学生FDの説明会場で、大勢の人間を前に堂々と話す先輩の姿をみて、憧れを持ったからだ。もっとも、今の木村さんは(先日のように)500名の来場者を前にしても淀みなくスピーチができる。

「学生FDに從事してよかった点は、プレゼン能力がダントツに伸びたことですね。それと論理的な思考力も向上しましたね。」

### 授業コンサルに取り組み目に見える成果をあげてきた。

そもそも学生FDとは何をする組織なのか——木村さんは「実はそれ、難しい問いで、全国70大学に学生FDがあるなか統一



大学を「善く、好く、快く」  
することをめざして。

自分史上、  
想像以上!

「想像もしなかった自分史」を始めた学生の肖像

Vol.02

[Interview: 奥谷 宏太郎 / 八木 真奈美 / 古賀 千晴]



学生FDサミット2015夏

的な定義がない。追大の場合、現在は授業改善です。私語など授業におけるマイナス要因を学生と教員で一緒に改善します。」

こうした活動は「授業コンサル」と呼ばれ、木村さんが代表になってから始めた事業だ。この取り組みには「SCOT(スコット)プログラム」という知識を修得する必要があり、木村さんは先駆けて実施していた大学の学生と教員から指導を受けた。

「授業中の私語や居眠りは、実はちょっとした仕掛けで改善できるものなんです。授業コンサルには守秘義務があり詳細はお話しできませんが、目に見えて成果があがっています。」

### 学生FDで知った大学の楽しさ。将来は、大学の教員が職員になりたい。

「私たちの活動は大学を善くしているか? / 好くしているか? / 快くしているか?」——先のサミットで掲げたテーマである。よい大学の在り方を思索し、授業改善などに努めてきた大学生活。やはり大学という組織に強い関心を持ったようで、「入学時の目標は国語の教師でしたが、今は大学のほうが楽しい。将来は大学の教員が職員になりたいと思っています。」

先のサミットのテーマは、今後も木村さんの関心事となって追究されることだろう。



国際教養学部 アジア学科 3年  
Hajime Kimura  
木村 萌さん

# FASHION PLUS

## 40年ぶりに復活? これが追大の制服。

開学(1966年)から1975年までの間、追手門学院大学に制服が存在しました。国際社会のリーダーにふさわしい紳士・淑女としての身だしなみと品格を備えるというコンセプトで、ファッションデザインの第一人者であった石津謙介・近藤年子両氏のデザインで礼服用と通学服が作成されました。40年前の制服に袖を通して見たのは、現役の追大生。さて、着心地は?



**[モデル | 永峰 加奈子さん]**  
最近ではなかなか見えないような雰囲気のある服で、レトロな可愛らしさと同時にカッコリとした感じも魅力に感じました。



**[モデル | 有川 泰正さん]**  
50年前の制服と言う事で古臭い印象を持っていただけれど、意外に着やすく、今とあまり変わらないデザインでしたね。



経済学部 経済学科 3年

**有川 泰正さん**

ついモノトーンになっちゃうので、少し色味を入れるのがポイントです。スキニーに白シャツ、緑のアクセサリで夏らしさを演出。ジャケットを羽織ると、秋っぽい印象にできます。(西尾)

国際教養学部 英語コミュニケーション学科 3年

**高橋 美帆さん**

ポイントのチェックシャツは腰上でくる。ウエストを細くみせる効果があるからです。冷房がきつい室内ではシャツを羽織る着回しをしています。自作のプレスレットなどをコーデにとり入れるのもこだわりのひとつです。(船岡)

社会学部 社会学科 1年

**大内 里穂さん**

サングラスで夏感アップ。ハット帽子をかぶるときはサングラスを胸元に引っ掛けると、それがアクセント効果となって、また違う雰囲気になります。(西尾)

経営学部 経営学科 2年

**岡田 草寛さん**

ベースはシンプルな服に大きめのネックレスで、男らしさを出します。シャツを羽織らないときは(自信のある)スタイルを強調。羽織るときはラフ感重視です。(福田)

経済学部 経済学科 1年

**永峰 加奈子さん**

今日は黒を基準としたコーデで大人っぽさを大切にしました。メガネは、かけるだけで雰囲気を変えることができるので、ファッションのアクセントになりますよ。(船岡)

ファッションはわたしたちの大切な第一印象。  
だから、服を着替えるだけで気持ちまで、リフレッシュできる!  
ちょっとしたコーディネートで毎日を楽しもう。

Bridgeアンケート  
その場で結果がわかるアンケートに答えよう!  
Check!  
Q3 気になったコーデはどれ?

# OTEMON COLLECTION VOL.1

ワンポイントコーデに注目!!

[ interview : 船岡 美奈 / 壽崎 達也 / 福田 菜摘 / 西尾 紗希 / 向井 雅駿 | Photo : 向井 雅駿 ]



社会学部 社会学科 1年

**室谷 美久さん**

明らかなワンピースに白の靴を合わせて、より明るさを強調。そこにグレーのパーカーを羽織れば、春っぽい感じになります。あとは靴下の色味も大切ですね。(西尾)

経済学部 経済学科 3年

**壽崎 達也さん**

好きな色は青や黒。そのままだと全体的に地味な印象になるので、ワンポイントに赤を使用。赤のチェックシャツを腰に巻いてバランスをとりました。(船岡)

地域創造学部 地域創造学科 1年

**中川 友香さん**

きょうは気候に合わせて、半袖と長ズボンの組み合わせ。この着こなしにはキャップがぴったり。好きなブランドはSPINS、WEGO。キャップはニューエラが好きです。(向井)

経済学部 ヒューマンエコノミー学科 3年

**金井 萌生さん**

気温の変化が激しい時期にパーカーは便利なアイテム。好きなブランドはGLADNEWSやリズリサ。リーズナブルな服を高く見せる工夫も大切です。(船岡)

経営学部 マーケティング学科 2年

**柏原 勝成さん**

ポイントは古着屋で購入したTシャツ。若々しいTシャツですが、カーキ色のシャツを羽織ることで白の面積は小さくなり、大人っぽい雰囲気に変えられます。(福田)

# OTEMON NEWS& TOPICS

【ニュース&トピックス】

Topics

## 12月は地球温暖化防止月間!

平成9年12月に京都で開催された気候変動枠組条約第3回締約国会議(COP3)を契機として、翌年の平成10年から12月が「地球温暖化防止月間」と定められた。

このため、府内各地で地球温暖化防止を考え、身近なエコアクションのきっかけとなる行事が多数開催されている。これらイベントには学生の皆様もぜひ参加してほしい。

私たち二人ひとりの取組みが、地球温暖化防止の力を握る。そのためこの機会により環境にやさしいライフスタイルを実践してほしい。



大阪府のエコアクションキャラクター  
モットちゃん(こいぬ)・キツちゃん(おさる)  
\*学校法人追手門学院では、本年1月に大阪府と「環境教育及び環境保全活動の促進に関する協定」を締結し、様々な環境活動に連携して取組みを進めている。

Sports

## チアリーダー部の高山さん バトン世界大会で優勝

国際教養学部英語コミュニケーション学科1年でチアリーダー部の高山あかりさんが、所属のダンススタジオ「WORLD WINGS」のメンバーとして、7月4日・5日に開催されたチア・ダンスの国際大会「Aussie Gold International Cheer&Dance Championships」ダンス部門に出場した。その結果、高山さんたちのチームが、最高得点チームに贈られる「ランドチャンピオン」をめぐり受賞。写真は開催地の豪州ゴールドコーストのビーチで、チャンピオンバナーを手にする高山さん。



## 第49回 追手門学院大学 将軍山祭

テーマ「笑愛(わらいあい)」

▶11月1日(日)

### 【ゲストLIVE】10-FEET

●開場=16:00/開演=17:00 ●場所=体育館  
●チケット1枚=1,500円 ※チケットぴあ [Pコード: 630-332]

### ボディーフェスティバル

今年もやります! [サッカー教室]  
●11:00~ ●場所=第一グラウンド

### ホームカミング・デー ●11:30~

▶11月2日(月)

### 【第1回】ミス追大 MC/かまいたち

●開場=16:30/開演=17:00 ●場所=体育館

### 音夜祭

●開場=11:00~16:00 ●場所=体育館

### スポーツイベント

●開場=10:00~ ●場所=第一グラウンド

▶11月3日(火・祝)

### 体育祭 [当日参加できます!]

●10:00~ ●場所=第一グラウンド

### 【トークショー】ラブリ

●開場=11:00(11:40迄に着席)/開演=12:00~13:00  
●場所=6号館 優駿ホール ●チケット1枚=500円  
\*当日10時より学内(6号館前)にて販売(先着550名様)

### キャラクターショー [観覧無料]

[1部] ●開演=10:00~11:00 ●場所=第二グラウンド  
[2部] ●開演=15:00~16:00 ●場所=追大緑地  
[雨天] ●開演=15:00~16:00 ●場所=体育館

Event

## MOMENTの美しさを キャンデルナイト

12月15日(火)18時20分~19時45分、ゼブラスクエア・追大緑地等でキャンデルナイトを開催する。雨天等で延期の場合は、翌日16日(水)の開催となる。テーマは「瞬間」という意味をもつ「MOMENT」。その瞬間だけの美しさを表現する。キャンデルの灯りのみで校舎を照らしたときの幻想的な雰囲気は、その「MOMENT」でしか味わえないものとなる。

スタッフ一人ひとりの思いが詰まったオブジェや、学祭で集めた千枚のメッセージにキャンデルの灯りを照らすイベントも見どころ。一人でも多くの参加を待つ。



Topics

## 阪急茨木市駅前に 「心のクリニック」分室開設

平成27年7月1日、地域支援心理研究センター「心のクリニック」の分室が、阪急茨木市駅の駅前に開設した(写真は施設の二重)。

「心のクリニック」は、本学心理学部の研究、教育の実績を地域に還元するために地域支援心理研究センターの附属施設として、2004年に設立した。以来、カウンセリング・遊戯療法等心理臨床的な支援を行う個別の相談機関として、言葉の遅れ・落ち着きのなさ・虐待・いじめ・不登校・育児不安・職場不応等の悩みを持つ地域の方の相談を受けてきた。

この分室を茨木市中部に設けることで、本学を拠点に地域内の事業所、保健所、警察署等の機関と今まで以上に連携した取り組みを行うことが期待できるとともに、茨木市内はもとより、北摂地域一円からの利用がより便利になる。



Topics

## 本学と大阪府による ウッドマーケティング講座



本学と大阪府が主催するウッドマーケティング講座を大阪梅田サテライトで、7月から10月の間、計5日間、9講義を開講している。

この講座は木材の生産・流通をマーケティングという切り口から捉えてもらうことで、府内産木材の生産・流通・利用拡大のコーディネーター役を育成する。本学からは経営学部の朴修賢准教授が「マーケティング概論を、岡崎利美准教授が「企業経営について」を講義。講師と受講者の交流会も開かれ、国産材の流通、販売をめぐる熱い議論も展開された。

Event

## ビジネスプランコンテスト 締切迫る

ベンチャービジネス研究所では、全学部を対象とした様々な活動を行っており、今年で第6回目を迎える「ビジネスプランコンテスト」は現在、応募受付中(詳細は左記)。毎年、個人やゼミのグループなどからたくさんの方の応募がある。今年もどんなプランが受賞するのか、ご期待。このほか「アプリ研究会」も活動しており会員は随時募集中。アプリに限らず、各イベントへの参加や指導もしている。ぜひ、気軽に参加されたい。

**応募受付中**

第6回/追大生  
**ビジネスプラン  
コンテスト**

募集期間 平成27年11月9日(月)まで

●お問い合わせ  
ベンチャービジネス研究所(中央棟1F)  
[月・火・木/9:15~16:00 担当 宮下]  
☎072-641-7374  
✉venture@ml.otemon.ac.jp

人権について考えよう

## 「真摯さ」

副学長 秦敬治

本学の教育理念は「独立自強・社会有為」ですが、これを全てできるといことは、自立した大人となり、組織や社会をリードする人材になるといことです。このことは、社会や地域、組織、団体、家族の中でリーダーとなったり、リーダーシップを取るといことであり、その役割は全ての人々に巡って来るものだと考えます。実は、皆さんは意識しようが、しまいが、既にそのような立場を毎日経験しています。そんなのです、全ての人々は、「独立自強・社会有為」を求められていると言っても過言ではないと思います。

さて、否応なしに上記のような立場になる皆さん、既になっているのですが、に最も求められることは何でしょうか? ポドフラックは、「真摯さ」が最も重要だと言っています。「真摯」とい言葉は、「真の幸せを丸く手におさめる」と書きまします。私は、「真摯さ」を持つて人と接することが、皆の幸せにつながると思っています。「真摯さ」の意味は非常に難しいものですが、ポドフラックは英語で「Integrity」と表していますが、真の意味は皆さんが感じていくものだと思います。私は、誰に対しても誠実であり、相手や場面によって態度を変えず、一貫して自分の正義を貫くこと。そして、そ

の正義が本当に正しいのかをいつも自問自答しながら生きていくことと感じています。

皆さんは、自分の家族と思えて、友人、知人と接していますか? フラスや組織の中のメンバーを自分の家族のように思っている指導したりしていますか? 「だって他人だから」と思う方もいるでしょうね。しかし、我々は全くの他人と結婚し、新たな家族を形成します。夫婦は他人なのです。そうなのです! そもそも家族は他人からスタートしているのです。私には妻以外にも血のつながっていない家族があります。しかし、誇りを持つて家族だと言えまします。その家族に「真摯」に接しようとしています。そして、私の周りの学生、教職員の方にも「真摯」に接しようという努力をしています。多分、生かされても私は「真摯さ」を全うできるレベルにはなれないと思いますが、「真摯」に対応できるよう意識することは心がける所存です。そして、真摯さを持つて人と家族となり、同志となりながら人生を歩みたいと思います。人間関係に苦しんでいる方、自分自身のことや悩んでいる方が沢山おられると思います。どうか、真の幸せを丸く手におさめるために、色んなことと関わらずに「真摯」に生きてみたらどうでしょうか。私は幸せですよ。

Award



## 2015年度 日本神経 回路学会 最優秀研究賞

乾敏郎(心理学部/教授)  
電子情報通信学会「コロロニューロネット」研究会で心の理論のバイジアンネットワークモデルを発表。この研究が大変高く評価された受賞。  
授与元/日本神経回路学会 (2015年9月)

## 2014年度 第8回地域社会学会奨励賞

古平浩(地域創造学部/講師)  
個人著書部門  
「ローカルガバナンスと社会的企業」  
—新たな地方教道経営—  
授与元/地域社会学会 (2015年5月)

## BOOK INTRODUCTION [追手門学院大学・教員の著書(五十音順)]

<p><b>テキストブック</b> 現代司法[第6版] 上石 圭一(社会学部)共著 2015年3月/日本評論社</p>	<p><b>ブリッジブック</b> 法システム入門 —法社会的アプローチ— 【第3版】 上石 圭一(社会学部)共著 2015年4月/南山社</p>	<p><b>発達科学ハンドブック</b> 第8巻 脳の発達科学 乾 敏郎(心理学部)共著 2015年9月/新曜社</p>	<p><b>非対格動詞の受動化の 誤用はなぜ起こるのか</b> —An accident was happened.をめぐって— 佐藤 恭子(国際教養学部)著 2015年3月/淡水社</p>	<p><b>「強さ」とは何か。</b> —少林寺学説創始者・宗道臣 70の言葉 鈴木 義孝(名譽顧問)構成 2012年5月/文春新書</p>	<p><b>特選! 桂米朝一門会</b> 【2枚組みDVD】 高垣 伸博(社会学部) 企画・解説/2015年8月 MBS(制作・著作)</p>
<p><b>ジャック・マー</b> アリババの経営哲学 永井 麻生子(非常勤講師) 訳/2014年12月 ディスカヴァー・トゥエンティワン</p>	<p><b>中国のステイブ・ ジョブズと呼ばれる男</b> —雷軍(レイ・ジュン)伝 永井 麻生子(非常勤講師) 訳/2015年5月 東洋経済新報社</p>	<p><b>シャオミ</b> 世界最速1兆円 IT企業の戦略 永井 麻生子(非常勤講師) 訳/2015年7月 ディスカヴァー・トゥエンティワン</p>	<p><b>日本産土壌動物</b> 分類のための図解検索 —【第2版】 西川 喜明(名誉教授) 加村 隆英(基礎教育機構) 共著/2015年2月 東海大学出版部</p>	<p><b>芸術的思考</b> 橋本裕之 (地域創造学部)著 2015年6月/森社</p>	<p><b>儀礼と芸能の 民俗誌</b> 橋本裕之 (地域創造学部)著 2015年10月/岩田書院</p>
<p><b>Hospitality English for Careers at Hotels</b> 増崎恒(国際教養学部)共著 2015年2月/金星堂</p>					